

研究主題

豊かな「つながり」を大切にした、深い学びのある体育学習

奈良県小学校体育研究会 指導法研修会 陸上運動部会

第1回陸上部会 2019年8月21日(水)

<授業者から>

・学級の実態

6年1組、男子9名、女子13名の22名の学級。元気な児童が多く、体育に対して積極的に楽しく取り組むことができる児童がほとんどである。休み時間は外に出て、キックベースやドッジボールなどをする児童が多い。しかし、消極的な児童もいて、学級の中で読書をしたり絵を描いたりしている。アンケートは取れていないが、スポーツテストの結果22人中15人が運動やスポーツが大好きに○を付けていた。

・リレーの授業

1学期は体カテストがあるので、短距離走や立ち幅跳び、ボール投げなどをしてきた。短距離をしている姿を見てリレーをしたいと考えた。世界記録保持者であるボルト選手の100mのタイムを4回足したのよりも日本人選手が走った400mリレーのタイムの方が速い。それはバトンパスに秘訣があり、面白いからくりであると思う。それらのことも踏まえて、バトンパスをメインにした授業を行いたい。

<質疑応答>

・リレーの経験はどれくらいあるのか？

→昨年度、重点的に時間をかけたわけではない。バトンパスについては未熟(立ったままバトンを受け取る児童等)な児童も多い。

・グラウンドの広さはどれくらいか？

→横70m×縦50m、トラック一周149m

<グループ協議>

Aグループ

・トラックを使うのは厳しい。100mトラックを新たに作り、半周でリレーはどうか。カーブはきつくなる。目標記録どうするか。50m走の参考記録から考えてみても良いのではないか。

・リレーによる記録の伸びを実感させるために直線で2人リレーや直線リレーと周回リレーを混ぜたリレーも考えられる。

Bグループ

- ・テークオーバーゾーンの使用方を工夫したい。
- ・勝負へのこだわりとチームの伸びを実感させたい。
- ・練習→トレーニング→記録会という単元の流れにしても良いと思う。

Cグループ

- ・セパレートコースにしても良いと思う。
- ・対抗戦がリレーの楽しさである。学級の実態に応じて入れていっても良いのでは。
- ・目標タイムを超えることをめあてにすることでタイムが縮まる。
- ・事前指導+基本的な技能という単元構想を立てて欲しい。
- ・トレーニングの選択肢を多くすることで意欲が高まるのではないかと思う。

Dグループ

- ・25mの間隔を一周するリレーの実践→バトンパスの練習に活かせる
- ・順番を固定するとバトンパスの上達につながるのでは。
- ・タブレットはある？→ない
 - ・教師から待っている子がチェックできるように見るポイントを示す。(テークオーバーゾーンでもらえていたらポイント等)

Eグループ

- ・リレーを楽しんでもらえるように 易しいリレーゲームからリレー競技へ繋ぐ
- ・目標タイムの設定をすると意欲がわくのでは。
- ・トップスピードでバトンパスできるように。チームの人数を調整する。
- ・映像として振り返ることができれば有効。
- ・グループは固定した方が技能面の向上、話し合いがしやすい。

Fグループ

- ・メンバーを固定すると良いと思う。(4・4・4・5・5)
- ・単元の最後にリレー競走をし、それまではチームでの記録の伸びを計測すると楽しい。
- ・毎回の授業でチームの記録向上のために話し合い、走順入れ替え等をしていくと良いのでは。
- ・自分たちの良いところをみつけられるように工夫してほしい。
- ・バトンパス練習時に、前走者の走る距離をどのくらいに設定するかが課題。
- ・6年生なのでリレー競技により近い単元にするべき。最初に例示等が必要だと思う。

Gグループ

- ・バトンパスを重視した授業作りに。
- ・チームのタイムを縮めるためにどうすればいいのかを考えさせたい。
- ・バトンパス位置、手等をどのように工夫すると良いか考えさせたい。

Hグループ

- ・単元6時間→①：オリエンテーション ②③：メインゲームにつながるゲーム ④⑤⑥：メインゲームという流れが良いと思う。
- ・バトンパスの技能を高めさせたい。
- ・50m走のタイムをもとにチームの基準値を決め、チームの記録の伸びをポイント制にすると良いのでは。
- ・バトンパスによってタイムが速くなる実感を得られるゲームにしたい。
- ・ワークシートを用いることで話し合いを活性化したい。
- ・セパレートコースの方がチームのタイムが縮まる実感を得られると思う。

<授業者より>

- ・1着2着の結果だけでなく、バトンパスをメインにしたい。
- ・リレーの楽しさをどこに持っていくか。基準のタイムをいかに短くしていくかをイメージしている。
- ・ワークシートの工夫もしたい。
- ・セパレートにすると交錯がなくなり、ぶつかることが嫌だと感じている子のケアになると思った。
- ・見合いをさせたいのでグループ数を偶数にしたら良いと思っている。22人なので、4, 4, 4, 3, 3の6グループ
- ・まずは自分が何を大切にしたいかをもう一度見つめなおして、セパレートで行くのかスタート位置をずらすのか、直線かトラックかなどを考えたい。

<意見交流>

セパレートコースをどうするか 見合い、教え合いをどのようにするのか

- ・自分達のチームでも見合い学習はできるのではないか
- ・個人走の積算タイムを目標にするのであれば欠席者がとても大丈夫である。
- ・どんな形態でどんな目標にするのかを授業者が明確にしてから授業形態のアプローチを考えた方が良い。
- ・セパレートコースは場の設定として難しいのではないか？
- ・兄弟チームで見合い学習をする（4チーム）。同時に走るのは2チームなのでセパレー

トじゃなくてもいけるのではないか。

・タイムを重視するならセパレート（オープンコースでは追い抜くときに膨らむため）が良いと思う。

・スタート位置をずらすことでオープンコースでも正確な計測ができるのではないか。

・セパレートコースの場作りは器具を使えば可能である。

〈岩垣先生からの指導助言〉

・陸上運動系では、バトンの受渡しに関する文言が示されている。

・新学習指導要領解説に運動が苦手な児童への配慮の例や運動に意欲的でない児童への配慮の例が示されているように、全ての児童が楽しく運動できることが大切である。

・学習内容が大きく変わるということではなく、主体的・対話的で深い学びが実現できる授業改善を意識して、授業を工夫する。

・児童がやってみようと思えるように、体ほぐしの運動を取り入れるなど、導入の仕方を工夫してほしい。

・バトンパスをどのようにするのか検討してほしい。右でもらって左に持ち替えるのかなど、学校としての指導も踏まえて考える。

・タブレット等がないので、見る視点をしっかりと決めておく。学習カードを効果的に使う。

・指導案を新学習指導要領の観点も踏まえて作成してほしい。評価についても次の部会で示していければと考えている。